



平成灯台守

2023. 6 月号

発行/御前埼灯台を守る会

快晴のもとで「灯台まつり」

「2023御前埼灯台まつり」が、5月3日から5日までの三日間、灯台前広場で開催されました。



御前埼灯台に親しむとともに、その歴史及び文化的価値を理解していただこうと、毎年「灯台を守る会」が企画しているもので、今年はコロナ禍が一段落し、期間中は五月晴れの好天にも恵まれて、連日多くの家族連れなどで賑わいました。



初日の3日には鯉のぼりが勢いよく泳ぐ広場では、御前

埼伝統の「なぶら御前太鼓」が響き渡り、御前埼小6年生29名による「御小ソーラン節踊り」が勇壮に披露されました。

また、ドリームメイトとJ A珍どん隊の皆さんによるダンスや古田善彦会員の口笛演奏に、訪れた人達から盛んな声援が送ら



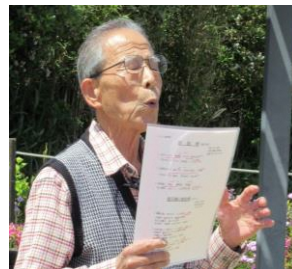
れていました。

期間中はこの他にも多彩な催しが

行われ、田川晃会員のハーモニカ演奏、うめたちあきさ



んのミニライブのほか、今年初参加となったブラズアルファの皆さんによるドリル演奏が灯台まつりを大いに盛り上げてくれました。



灯台資料館は延べ1,131人

灯台資料館には三日間で1,131人が見学しました。前年と比べ約200人少なく、これは、浜松まつりの復活とNHK大河ドラマ“松潤家康”の影響によるものと思われます。来館者達は、目前に広がる美しい海原に歓声をあげるとともに、数々の展示資料と会員からの説明により、御前埼灯台への関心を深めていました。 by kamashita

イベントに地域の皆さんの協力

灯台まつりの出演者やスタッフ駐車場に、灯台周辺の宿泊施設や上岬区民館広場、民家の庭などをお借りしました。

資料館には蛭田康介会員（浜松市）が3Dプリンターを使って製作した御前埼灯台の模型提供がありました。

また、4月27日に行った灯台敷地の草刈りには航空自衛隊御前崎分屯基地の隊員の協力もありました。

この場をお借りしてお礼申し上げます。



初の外国籍客船が寄港

4月11日、御前埼港にオランダの大型客船「ウエステルダム号」（8万2千ト）が寄港しました。

この船は、横浜港発着の「釜山と北海道を巡る日本列島周遊クルーズ15日間」のツアー客1,370人が乗船しています。

御前崎市では御前埼灯台やイオンタウン浜岡、牧之原茶園など市内巡り5コースを設定。灯台を守る会では灯台資料館を開館し、おもてなしをしました。アメリカ、カナダ、フランス、ドイツ、スウェーデンなどからの130人余りが見学しました。

日本の昔の灯台「灯明堂」を説明すると、驚きの声を上げ、カメラに収めていました。また、回転機械を見て“オーマイガー”。一緒にいた外国歴が永いという年配の日本女性は、「外国の人は古い物に関心が強い。



素晴らしいお宝ですので、大事にしてください。」と話しました。



広場はまるで海外に迷い込んでしまったかのような錯覚に陥りました。

客船は午後5時頃、御前埼灯台沖を次の寄港地、神戸港に向けて進んでいきました。

R4資料館入館者は8,474人

令和4年度1年間（4月1日から3月31日）の灯台資料館は、開館日数49日、延べ入館者数は前の年の約3倍にあたる8,474人でした。増えた要因は、コロナが小康状態となり開館日が増えたことや灯台まつりができたこと、灯台の重要文化財指定や灯台ワールドサミットが開催されたことなどによるものと思われます。



<当番日誌から>

- ・御前埼海上保安署から提供された日本列島海底地形図は3Dメガネで見ると、日本海溝の深さや南海トラフの様子が良く分かり、大好評だった。
- ・方言丸出しの案内に親しみと温かさを感じたと喜んでくれたお客さんもあった。
- ・御前埼に50回ほど来ているという灯台好きの金谷の女性は難破船がもたらした文化や産業に興味を持たれたようだ。
- ・灯台の構造や回転機械、御前岩灯台のことなどの質問が多く、ヒヤヒヤだった。
- ・御前岩灯台の場所を玄関先から案内すると、歓声を上げて喜んでくれた。